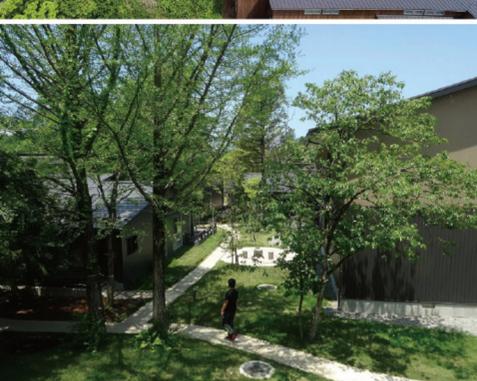


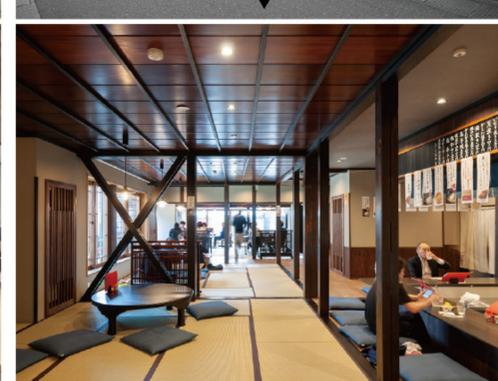
# Share 金沢



# B's・行善寺



# 輪島 KABULET



## ごちゃまぜのまちづくり | Share 金沢 B's・行善寺 輪島 KABULET

日本は本格的な人口減少の時代に入し、とりわけ地方の過疎化・高齢化が益々進んでいる。その一方「人生100年時代」とも叫ばれ、国民がいつまでも健康でアクティブに過ごせる環境が求められている。日本政府は平成27年にひと・まち・しごと創生法を公布し「生涯活躍のまち」構想をまとめた。「生涯活躍のまち」構想は東京圏をはじめとする地域の高齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み多世代と交流しながら「健康でアクティブな生活」を送り、必要に応じて医療介護を受けることができるような地域づくりを目指すというものである。

私たちが取り組んできた一連の地域創生プロジェクトはこの「生涯活躍のまち」構想に基づいたものであり、福祉を取り込み住民が自ら参加してアクティブに暮らしていける街づくりの実践である。三つのプロジェクト「シェア金沢」「B's・行善寺」「輪島カブレット」はそれぞれ異なった背景を持つ。

「Share 金沢」は金沢市の東部郊外に立地している。金沢刑務所に隣接した元国立病院の跡地で、市民にとってはあまり身近に感じられない場所での地域創生プロジェクトであり、約1万坪の敷地に様々な施設を展開するエリア型の街づくりである。

「B's・行善寺」は日本のどこにでも見受けられる都市化が進む古くからの農村地域であり、タウン型と類別される周辺地域を巻き込んだ地域コミュニティの中核施設づくりである。

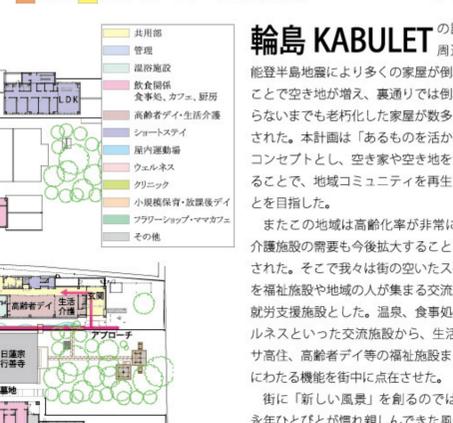
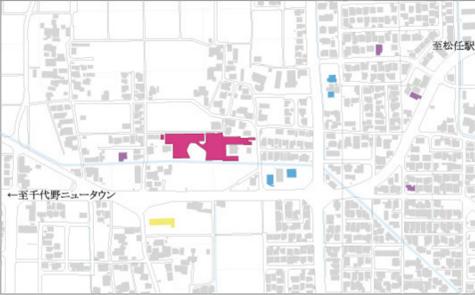
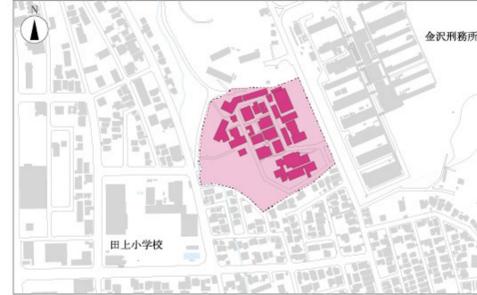
「輪島カブレット」は人口減少が進み高齢化率が40%を超え、且つ2007年の能登半島地震で甚大な被害を受けた日本の典型的な過疎地での街づくりである。ここは既存住宅地の空き家・空き地を活用したタウン型の施設である。

これらの街づくりに共通する理念は「ごちゃまぜ」である。幼児から高齢者まであるいは障がいの有無にかかわらず様々なひととびとが「支えー支えられる」の関係性ではなく「ともに生き支えあう」街を目指している。そのために地域住民のコミュニケーションづくりを重要し古くから日本社会が保有していた地域コミュニティの再生を図っている。またいずれの地域でも従来のサービスを提供する側の効率性や機能性を重視した縦割りの福祉制度では実現することが困難な、障がい者を含め地域住民が生きがいをもって生きていくための様々なプログラムが用意されている。さらに、街全体が就労支援施設であり多様な施設があることで障がい者の適正に応じたフレキシブルな配属が可能となっていることも特徴的である。

「B's・行善寺」は日本のどこにでも見受けられる都市化が進む古くからの農村地域であり、タウン型と類別される周辺地域を巻き込んだ地域コミュニティの中核施設づくりである。

「輪島カブレット」は人口減少が進み高齢化率が40%を超え、且つ2007年の能登半島地震で甚大な被害を受けた日本の典型的な過疎地での街づくりである。ここは既存住宅地の空き家・空き地を活用したタウン型の施設である。

これらの街づくりに共通する理念は「ごちゃまぜ」である。幼児から高齢者まであるいは障がいの有無にかかわらず様々なひととびとが「支えー支えられる」の関係性ではなく「ともに生き支えあう」街を目指している。そのために地域住民のコミュニケーションづくりを重要し古くから日本社会が保有していた地域コミュニティの再生を図っている。またいずれの地域でも従来のサービスを提供する側の効率性や機能性を重視した縦割りの福祉制度では実現することが困難な、障がい者を含め地域住民が生きがいをもって生きていくための様々なプログラムが用意されている。さらに、街全体が就労支援施設であり多様な施設があることで障がい者の適正に応じたフレキシブルな配属が可能となっていることも特徴的である。



「ごちゃまぜ」をコンセプトとした最初のまちづくりである。運営法人はこの街を「アクティブ・エイジング」という考えに基づいて、街の住民自身が創りあげていく「私がつくる街」という言葉で運営コンセプトとして打ち出している。住民が運営する売店はこの街の象徴的な施設である。福祉施設としては児童入所施設、高齢者サービスなどがある。複合施設である本館には温泉やレストラン配置し、誰もがここでつづることが出来る。また、カフェや料理教室、ボディアクなどの個性的な交流施設が入居し、豊かな「アクティブ・エイジング」を可能にしている。

敷地全体を使って、平屋もしくは2階建ての建物を主体とした、自然環境を活かしたヒューマンスケールの街を創ることを目指した。機能別配置とせず、建物の規模や形態に応じ、25棟の建物を敷地全体にランダムに分棟配置している。

施設は構成は多岐にわたり、福祉・医療施設としての高齢者デイサービス、障がい者生活介護、小規模保育園、整形外科クリニックに加え、交流施設として天然温泉、食事処、ウェルネスなどが併設されている。施設の東側には運営法人のルーツとなる日蓮宗の寺院があり、それを取り囲むように高齢者サービスや食事処などを配置し、西側は中庭を中心に保育園やウェルネスなどを配置し、活動的なエリアとした。この中庭とその周りの建物は隣接する通りに向かって開いた形状とすることで、街に賑やかな風景を生み出している。平面計画ではこれらの多様な機能が組み合うように配置し、あえて動線が交わるようにすることで交流が生まれることを促している。

「ごちゃまぜ」をコンセプトとした最初のまちづくりである。運営法人はこの街を「アクティブ・エイジング」という考えに基づいて、街の住民自身が創りあげていく「私がつくる街」という言葉で運営コンセプトとして打ち出している。住民が運営する売店はこの街の象徴的な施設である。福祉施設としては児童入所施設、高齢者サービスなどがある。複合施設である本館には温泉やレストラン配置し、誰もがここでつづることが出来る。また、カフェや料理教室、ボディアクなどの個性的な交流施設が入居し、豊かな「アクティブ・エイジング」を可能にしている。

敷地全体を使って、平屋もしくは2階建ての建物を主体とした、自然環境を活かしたヒューマンスケールの街を創ることを目指した。機能別配置とせず、建物の規模や形態に応じ、25棟の建物を敷地全体にランダムに分棟配置している。

